

自然災害からわたしたちの暮らしを守るためにできることは？

◆実施学校名	北中城村立北中城小学校	◆学年	5学年
◆教科	社会科	◆時間数	第4・5時／全5時間
◆単元名	自然とともに生きる	◆関連教科	

授業のねらい（本時の目標）

自然災害から暮らしを守るために、「減災」の考え方が広まっていることを捉えるとともに、地域で協力してできることや、自分にできることを考えられるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

授業の概要

○地域の防災マップをもとに自分の住んでいる地域で起こりうる災害について確認する。
○自然災害が起きたとき、「減災」の考えに基づき、自分にできることを「自助」「共助」「公助」の視点で話し合う。

キャリア教育の目標（キャリア教育的視点）

○みとおす力：自分の住んでいる地域で起こりうる災害を想定し自分にできることは何かを考える
○かかわる力：防災マップから地域の様子を知り、地域住民との関わり方について考える
○ふり返る力：学習を通して自己の役割を理解する

時間	授業の内容・流れ	キャリア教育的視点と解説
導入	1. 台風19号に関する記事を見て、課題を持つ。 ※南相馬市20代市職員が避難所準備で残業後帰宅途中に死亡 (2019年10月18日付 朝日新聞より)	【指導の工夫】 新聞記事を用いた導入により、本時の学習への興味関心を高めるとともに、地域の課題を自分事として捉えさせている。
	○本時のめあてを確認する。 自然災害から暮らしを守るために、私たちにできることは何か考えよう。 2. 防災マップをもとに地域で起こりうる自然災害を確認する。	【指導の工夫】 災害が起きた時、役場(公的機関)にばかり頼るのではなく、地域で起こりうる災害を想定し、自分たちにできることは何かについて考えさせている。
展開①（第4時）	ハザードマップを重ねると 住んでいる地域で起こりうる災害を予想	【指導の工夫】 防災マップから、自分の地域で起こりうる自然災害について知ること、課題に対応する力を高めている。

児童による本時のまとめ

自然災害が起きた時は、自分の身は自分で守り、どこで何が起きそうか、知、ておくことが、大切です。

ふり回り

私は、小学校はひなん場所に指定されているから、安全なのかなと思、た。けれど、小学校のうらは、ちょっと地すべりが起きそうと危険だと思、た。

災害が起きた時に備えて、危険な場所を知っておく

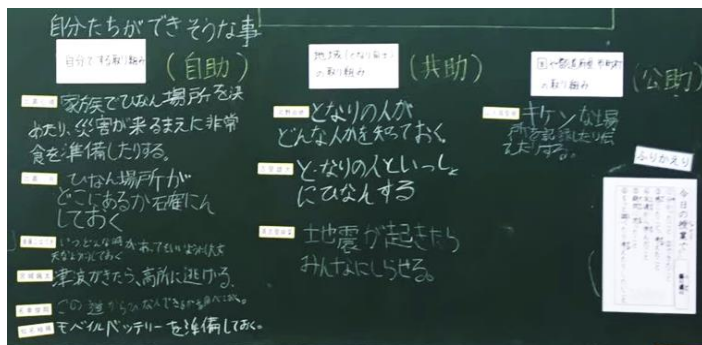


学んできた過程を自分の言葉でまとめ、ふり返ることで、起こりうる災害を自分事として捉えることに繋がったと考える。

かかわる力

- ・地域を大切に思う力
- ・地域の一員として協力する力

3.「減災」の視点で自然災害が起きたとき、自分にできることを話し合う。



自然災害が起きたとき、「自助」「共助」「公助」の視点で家族や地域住民との協力について考える姿が見られる。

4. 自分たちの地域で起こりうる自然災害から暮らしを守るため、私たちにできることについてふり回り、まとめる。

児童による本単元のまとめ

自然災害から私たちのくらしを守るためには自助、公助、協力をしながら地いきり、人たちと協力してくらし。

ふり回り

新しく自助という言葉が学ばれました。自然災害から私たちのくらしを守るには、役工場の人、たいけい、な、く、自分たちをまわりの人を助け、いくと、災害による被害をへらすしていくことが、大切なことだと分りました。

本単元の学習を自身の言葉でまとめ、振り返ることで、地域の一員としての自覚の高まりが見られる。

ふり返る力

- ・行動を振り返り、改善に繋げる力
- ・自己の役割を理解する力